

2010年度 勇魚会(海棲哺乳類の会)シンポジウム「海棲哺乳類をめぐる技術」開催報告

勇魚会会長
森阪 匡通

2011年2月11日(祝)に、東京大学駒場Iキャンパス18号館1階ホールにて、2010年度 勇魚会(海棲哺乳類の会)シンポジウム「海棲哺乳類をめぐる技術」を開催いたしました。勇魚会(海棲哺乳類の会)の主催でしたが、東京大学教養学部附属教養教育高度化機構生命科学高度化部門、そして東京大学生命科学ネットワークの2組織に後援いただき、会は盛況のうちに幕を閉じました。

参加者は全部で92名にのぼり、募集期間がほぼ一か月しかないという状況にもかかわらず、これまでの勇魚会シンポジウムと同じ、もしくは多い参加人数となりました。また、参加者の中には小学3年生、高校生などもいらっしやり、幅広い年代に来ていただけたと実感いたしました。アンケートを見ますと、難しかった、という方は少なく、わかりやすかった、親しみを持てた、という回答が多く見られました。最新技術を説明いただいたにもかかわらず、このようなご意見をいただいたのは、発表者が私たちの意思、つまり「最新技術をわかりやすく伝える」をしっかりと汲み取っていただいたおかげです。

後援をしていただいた2組織のおかげで、素晴らしいホールをお借りでき、シンポを開催できたのも大好評でした。お茶やお菓子をつまめるスペースがホール近くにないというデメリットも、残念ながら指摘がいくつかあったのも事実ですが、それを補って余りあるホールでした。また授乳室として、フリースペースや機械室を利用し、子ども連れの参加者・発表者が周りを気にせず参加できたのは大変よかったです。

一般口頭発表は5題あり、クジラに着くフジツボの話から生態、行動、心理、そして動物イラストの話まで多様で、参加者も飽きなかったようです。また、講演会として、5人の講演者をお招きしました。「イルカの妊娠を知りたい」「イルカの性格を遺伝子から知る」「見えないアザラシの行動をみる」「イルカのソナーをまねる」「イルカロボットを作る」というタイトルで、イルカの体内を見る技術から行動、そしてそれを生かして人間の生活に応用する技術まで多様なご講演を頂きました。

シンポジウムの盛況ぶりはそのまま懇親会にもつながっていき、60名近くの参加がありました。その後2次会にも40名近くが参加し、シンポジウムの成功を感じました。

最後にご講演をして下さいました先生方、そして後援して下さいました東京大学教養学部附属教養教育高度化機構生命科学高度化部門、そして東京大学生命科学ネットワークのみなさま、特に生命科学高度化部門の石浦 章一 教授、高橋 秀治 特任准教授、そして生命科学ネットワークの山本 正幸 教授 に厚くお礼を申し上げます。

2011年3月4日



シンポジウム後、参加者で記念撮影



シンポジウムの様子。左端に見えるのは写真展。機械室(授乳室)からもシンポを楽しむことができた。